

農研機構 農村工学研究部門
Institute for Rural Engineering, NARO (NIRE)
- 研究者の横顔 -

上田 達己 (UEDA, Tatsuki)

上級研究員, Ph.D. (土木環境工学), M.Sc. (経済学)

1969 兵庫県生まれ

1991 北海道大学農学部農業工学科 卒業

1993 京都大学大学院農学研究科 修了
農林水産省 農業工学研究所 採用

2016 農研機構 農村工学研究部門 地域資源工学研究領域

2021 資源利用研究領域 地域資源利用・管理グループ

2022 農研機構 本部 NARO 開発戦略センター

2025 資源利用研究領域 地域資源利用・管理グループ
(2015年以前は、[前回記事参照](#))



研究者の横顔

<産業連関分析と格闘して>

今回、10年ぶりに「研究者の横顔」に執筆を依頼され、この10年間（本部での3年間を除く）にどのような研究に取り組んできたかを改めて思い起こしてみると、工学・自然科学から経済学に守備範囲を広げ、「産業連関分析」（経済分析の一種）をツールとして研究してきた時期とほぼ重なります。私は、それまで化学・微生物学に関する実験系の研究を中心に行ってきたので、データ解析もエクセルに内蔵されている関数でほぼ事足りており、プログラミングには縁がなかったのですが、産業連関表をはじめとする種々の大規模な統計資料を扱うことから、Excel VBA（マクロ）がどうしても必要となり、四苦八苦しなながら、40代半ばで新たに勉強しました。また、「経済波及効果」をはじめとする、それまで扱ってきた工学・自然科学分野の研究アウトプットからすると抽象的な概念も扱うようになり、それらのもつ意味合いと格闘しながら研究してきた気がします。それに関して色々と思い悩んでいた頃の記事が、[当メルマガのバックナンバー](#)（2018年2月号）にありますので、ご興味のある方はどうぞ。

<本部勤務もありました>

2022年からおよそ3年間、2回目の機構本部での勤務となり、農研機構の中長期的な研究開発戦略の策定や、国際連携活動に関する支援業務などに従事しました。（写真は、オランダ・ワーヘニンゲン大学等との国際共同研究プロジェクトのメンバーを農研機構の北農研（北海道・芽室拠点）にお迎えした時のものです。）つくばから東京への日々の通勤も相まって、色々大変な3年間でしたが、所属していた「NARO 開発戦略センター」は、中途採用や出向で民間企業等から移ってきた方々がかなりの割合を占める、機構の中では特異な部署で、それらの方々からも良い刺激を受けることができました。

